



NHK松山放送局 「いよ×イチ」気象キャスター

日本気象協会 気象予報士

石博 亜紀子さん

Akiko Ishigure

輝く女性
インタビュー



三重県四日市市出身。東京農業大学卒業。数年のOL生活の後、2006年に気象予報士の資格を取得。現在は一般財団法人日本気象協会所属。NHK広島放送局などを経て、2012年からNHK松山放送局で気象キャスターを務める。趣味はマラソン。

NHK松山で人気の気象キャスター、石博亜紀子さんを取材
心から「好き」と思えるかどうか。
仕事の楽しさ、面白さは気持ち次第！

大好きな仕事だから
もっと研究したくなる

NHK松山放送局、夕方のニュース番組「いよ×イチ」に出演中の石博さんは、子どもからお年寄りまで、幅広い世代に人気のある気象キャスター。「こんにちはと出迎えてくれた柔らかい笑顔が、印象的な女性でした。

石博さんが気象予報士の資格を取得したのは、大学を卒業してから数年が経った2006年のこと。「大学時代にやりたいことが見つからず、数年間はOLとして働いていました」。しかし、やはり「自分でやっていける仕事にしたい」と念発起。小さい頃から大好きだった「自然」に関わる仕事をと選んだのが、「気象予報士」だったそうです。「仕事をしていると、大変なこともありますよね。でも、心から『好き』と思える仕事なら努力も辛くない。大切なことだと思います。」

技術者をめざす 女子学生のみなさんへ

きめ細かい気配りや忍耐強さなど、実際の職場で活かせる、女性ならではの強みはたくさんあります。そしてもっと大事にしてほしいのは、就職を前にもう一度自分を見つめ直して、「自分が本当に好きなことは何か」をじっくり考えること。「好き」という想いがあれば、どんな状況でも乗り越えて、仕事を楽しむことができます。失敗を恐れずに、前進していきましょう。

案内する「ルーティングサービス」や、ラジオテレビの気象情報原稿を作成する部署を経験。その関係もあり、ラジオで話す仕事キャスターへの第一歩となりました。「人前で話すのが得意というわけではなかったのですが、自分が伝えたいことに対して視聴者から反響をもらっているうちに、どんどん面白くなってきて、『テレビでもやってみたい』と思うようになりました。」そんなとき、石博さんを招いたのが、NHK広島放送局でした。

自分で限界を決めないで
可能性には常にオープンに

石博さんにとっては、地縁のない広島。知らない土地に住むことに不安はなかったのでしょうか。「もちろん不安はありました。でも、自分の道を自分で狭めてしまおうのはいらない。仕事の幅を広げられる機会やチャンスがあるなら、常に挑戦したいと思っています。」そして、2012年からは活躍の場をNHK松山放送局へ。

毎日、気象庁から発表される気象データなどを参考に、天気を予想し、原稿を作成。短い気象コーナーの中でも、「何か視聴者の役に立つ情報」と、ワンポイントコーナーの内容にもこだわります。「毎週金曜日には、視聴者からの質問コーナーがあるのですが、『虹はどうやってできるの?』など、子どもの素朴な質問に分かりやすく答えるのは至難の技。人に教えるためには、自分ももっと深く知らなければ、1回1回が勉強ですね。」さらに、

番組内では、松山の街を散策しながら出会った人たちと交流していく「ぐれ散歩」のコーナーも担当。活動の場はどんどん広がっているようです。
この仕事を始めてから、周りの人々に天気がついて聞かれる機会も増えたという石博さん。「仕事に出かけるとき、旅行を楽しみたいとき、私の予想が少しでも皆さんの役に立っていると思うと、本当によろしいですね。」



局内の体験ブースに入り、憧れの石博さんと一緒にニュースキャスターに挑戦する編集長の福田さん

私が取材してきました!

取材
後記

『好きな仕事で活躍していきたい!』



石博さんがNHK広島放送局の天気予報に出演されていた時、テレビで毎日のように見て憧れていたのが、直接お話を伺うことができた今回の取材は夢のような時間でした。「心から『好き』と思える仕事をされている石博さんの姿は本当に眩しく、私も『これが好き!』と思えることを見つけ、自分らしさを活かせる仕事に就きたいと思いました。また、夢に近づく可能性を見つけたら、どんなことでもその機会を逃さずに行動していこうと強く感じました。」

地球環境学科 3年 福田 恵里子

